

廃校と地域資源を活用したICTクリエイター・テレワーカーが集う「勝浦テレワークセンター」の創出事業

株式会社パクチャー（千葉県勝浦市）

| | | | | | |
|---------------------------|---|------|---------|-------|------|
| コンソーシアム名 | 勝浦ふるさとテレワークコンソーシアム | | | | |
| コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関) | 株式会社パクチャー、勝浦市、株式会社トゲル | | | | |
| 地方移動者数 | 従業員：2 | 個人：2 | 地元ワーカー数 | 従業員：4 | 個人：2 |
| 事業概要 | <p>人口が減少し過疎地域に指定された勝浦市の廃校(旧)清海小学校を本事業で改修・整備し「勝浦テレワークセンター」を開設。東京から電車で90分、海まで徒歩0分のロケーションと魅力的な地域資源(温泉・海の幸・地酒・釣り・ゴルフ場等)は、ワークライフ・バランスの向上とテレワーク勤務者の家族の移住につながり、地方からのGDP押し上げの一翼を担います。都市部と同様の仕事環境を整備するため、セキュアなネットワーク構築、作業空間の改修整備は、廃校に新しい「価値」を生み出し、地方へ人と仕事の流れを創出し、地元ワーカー等の創業支援の場へと変わります。行政と民間企業のコンソーシアムによりICTやテレワークを活用した継続的な事業を進め、近隣地域と一体となった新しい地方創生を目指します。</p> | | | | |

テレワーク協働拠点の整備

廃校となった小学校を活用して、都市部から「人・仕事」の流れを創出しテレワーカーの移住や長期派遣を目的とした協働拠点を整備する。勝浦市の豊富な地域資源を活用しワーク・ライフ・バランスの向上を実践する。

センター内は「集中と開放と混在」をテーマとし柔軟な働き方の実現と新しい化学反応が生まれる場を目指して改修整備を行っていく。

勝浦市を中心とした連携機関との協力体制により、活発的なシェア協働空間を継続的に運営する事で地元ワーカーに向けてICTを活用した起業創業の聖地となるような長期的な地域活性拠点を目指す。

株式会社 パクチャー

- ・ Web制作 / Webデザイン / 広告業
- ・ コワーキング / シェアオフィス運営

千葉市本社業務の一部を地方に

株式会社 トゲル

- ・ システム構築 / 営業支援システム
- ・ コワーキングスペース / 会議室運営

東京本社業務の一部を地方に

千葉大学 COC+

CHIBA UNIVERSITY
学生の地方への雇用創出などの取組みの実施
勝浦市は重点モデル地域として進める

地元ワーカーの進出

職場の創造で地元雇用の創出 創業支援から地元起業

地方移住者の創造

ワーク・ライフ・バランスの向上、地域資源の体験

★千葉県 商工労働部 企業立地課

・ 企業誘致に関する助言、勝浦市への企業マッチング
地方創生推進交付金事業（広域連携事業）

勝浦市商工会

・ 創業支援事業フォローアップ
起業 / 創業の経営支援 連携

市内金融機関

・ 企業誘致サポート / 移住のフォロー
勝浦市との連携協定

ローカルハブ 事業協同地域

廃校の活用

人と仕事の流れ創出

創業・起業・移住

勝浦テレワークセンター

勝浦市

テレワーククラウド

ふるさとテレワーク推進事業

都市部にある本社との社内情報連携
◆ グループウェア構築 ◆ データ共有

Web 会議システム / 業務・勤怠管理
◆ 本社とのコミュニケーション ◆ 出退勤管理

セキュアな光回線ネットワークの構築
閉域ネットワークを経由でセキュアな環境

安全で高速な Wi-Fi 環境の整備
高速 Wi-Fi 環境整備、本社同様の環境づくり

廃校と地域資源を活用したICTクリエイター・テレワーカーらが集う「勝浦テレワークセンター」の創出事業 株式会社パクチー（千葉県勝浦市）

■整備した拠点の概要

- 名称：勝浦テレワークセンター
- 住所：千葉県勝浦市鷺原142-2
- 利用対象者：都市部のフリーランス、IT系クリエイター、起業家、スタートアップ、勝浦近郊の方
- 収容人数：1階コワーキングスペース 18名、2階シェアオフィス 14名
- 実施業務：ICTを活用したWEB開発、WEBデザイン、プログラミング、システム開発等



■整備完了後の取組内容の概要

- 1階コワーキングスペース
都市部に本社がある3社がテレワーク拠点としてICTを活用したweb制作業務や打合せスペースとしてコワーキングスペースを活用、都市部のフリーランサーのドロップイン利用(都度利用)にも対応し地方でのテレワークの体験を行い、移住定住や地方での仕事を実際に行っていただく。
- 2階シェアオフィス
都市部に本社がある企業の支店登記場所として提供、顔認証の入退館システムを導入しているためセキュアな環境が守られブースタイプの個室になっていることから、集中した作業や会社備品などの保管にも対応している。
都市部からのスタートアップの拠点として低価格な賃料にて提供を行う。

(参考①) 整備した拠点について

勝浦テレワークセンター

廃校となった（旧）勝浦市立清海小学校を活用し、都市部から地方への人や仕事の流れを創出することを目的としています。

柔軟な働き方の実現に向けた新しい定義「集中と開放と混在」という概念にて個別ブースとなったシェアオフィスにて限られた時間での業務効率を上げ自由な座席の空間では開放的な職場環境で作業を行うことができます。混在はテレワークで疎外感を感じず、多様な人間が集う場所を提供します。これから広がる新しいテレワーク空間にご期待下さい！



職員室部分をコワーキングスペースに

整備箇所



コワーキングスペース



廃校となった小学校を利活用



テレビ会議商談室

シェアオフィス



勝浦テレワークセンターの目の前はビーチ

(参考②) 整備完了後の取組内容について

運営計画

- ・勝浦テレワークセンターではコンソーシアム内に2社のコワーキングスペース運営企業があり空間運営に関しての実績があるため、IT系企業へのアプローチを行い、都市部から地方へのテレワークを推進する。システムエンジニア等による開発合宿などで勝浦テレワークセンターを体験していただき、その後の新しい拠点として活用を促す。
- ・2階のシェアオフィス部分は既に活用する企業の入居が決定しているが、その他に10教室の未活用教室があるため、継続して都心部の企業へ向けて継続した利用案内を行っていく。
- ・早朝にテレワークセンター目の前(徒歩1分)の鵜原海岸でサーフィンを楽しみ、10時からテレワークセンター内で勤務を行ったり、テレビ会議システムにて本社同様の会議に参加できるなど、ワーク・ライフ・バランスの向上を行いながら、新しい働き方改革の実践ができる場となる。

【平成29年度 目標数】

地方従業員移住者 4人、個人移住者5人、長期従業員派遣者等4人、長期個人派遣1人

進出企業による地元雇用4人

地元起業家2人、施設利用者:100人

(コワーキングスペース利用者 月間100人 ※ 開所から1月間の運用)

【平成30年度 目標数】

地方従業員移住者 7人、個人移住者7人、長期従業員派遣者等5人、長期個人派遣3人

進出企業による地元雇用10人

地元起業家15人、施設利用者:1,200人

(コワーキングスペース利用者 月間100人)